

## アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (コ02)

**目 的** 東南アジア、西アジアやその周辺地域における文化遺産保存修復事業等への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて、文化遺産の保存修復及び管理活用に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

- 成 果**
1. 研究会「大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係」の開催（2018（平成30）年12月16日）。タイとミャンマーより建築遺産専門家各1名を招聘（2018（平成30）年12月14日～19日）
  2. カンボジア・アンコール・タネイ寺院保存整備計画策定支援等
    - ア) 考古発掘（東参道及びテラス遺構の継続調査、外周壁東門周囲）、外周壁東門建造物修復に向けた支保工置換及び3Dスキャニングによる現状記録、寺域東方の地形測量等の作業を実施（2018（平成30）年6月3日～9日、8月18日～10月8日、2019（平成31）年1月19日～26日、3月7日～18日）
    - イ) アンコール遺跡保存国際調整委員会技術会合への参加及び報告（2018（平成30）年6月5日～6日）
    - ウ) 東南アジア考古学会例会（於奈良文化財研究所）における報告（2018（平成30）年10月15日）
  3. イラン文化遺産手工芸観光庁及び文化遺産観光研究所との協力事業  
同国国立博物館における「博物館の環境管理に関するイラン人専門家研修」及び関連調査の実施（2018（平成30）年10月18日～26日）
  4. アルメニア・エチミアジン大聖堂博物館及び同国歴史文化遺産科学研究センターにおける「染織文化遺産に関する保存修復研修」の実施、ジョージアにおける協力可能性調査（2018（平成30）年6月19日～7月12日）
  5. ブータンにおける歴史的民家保存に関する調査実施及び関係機関打合せ（2019（平成31）年1月13日～19日）
  6. 韓国・平昌で開催された第12回アジアの建築交流国際シンポジウム（ISAIA2018）に参加し、ブータンの伝統的民家建築について発表（2018（平成30）年10月23日～26日）

- 発 表**
- ・ Masahiko TOMODA et al.: "Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei Temple and Progress of the Archaeological Investigation" The 30th Technical Session of ICC-Angkor, 18.6.5
  - ・ Alejandro Martinez, Masashi Abe: "Conservation and Archaeological Investigation at Ta Nei Temple, Angkor", 第262回東南アジア考古学会例会 18.10.15
  - ・ Masahiko TOMODA et al.: "Architectural features of traditional houses in Bhutan" ISAIA 2018 The 12th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, 18.10.24
- 刊行物**
- ・ "Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor -Progress Report of 2017 and 2018-" APSARA/ TNRICP, 19.3
  - ・ 『東南アジア古代都市・建築研究会：東南アジアの古代都市を考える』東京文化財研究所 19.3
  - ・ 『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成30年度成果報告書』東京文化財研究所 19.3

**研究組織** ○友田正彦、安倍雅史、山田大樹、マルティネス・アレハンドロ、間舎裕生、浅田なつみ、荒木晶（以上、文化遺産国際協力センター）、佐野千絵、小峰幸夫（以上、保存科学研究センター）、石井美恵、古田嶋智子（以上、客員研究員）、呂俊民（前客員研究員）、大石岳史（東京大学）、内田賢二（測量専門家）

## 研究会「大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係」(③コ02の一部として実施)

東南アジアの木造建築文化をテーマとする研究会を平成28年度よりシリーズ開催している。本年度は、現存する木造建築遺構から読み取れる技術的な特徴や、その発達過程における域内相互、さらには域外との関係性をテーマに、カンボジア・タイ・ミャンマーの3か国に主に焦点を当てて、報告・討議を行った。

日 時：2018(平成30)年12月16日(日) 10:30~17:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：52名

講 演：フランソワ・タンチュリエ(インヤー・ミャンマー学研究所理事)

「長期持続」にみる木造建築伝統とその発展に関するカンボジアとミャンマーの比較検討

ポントーン・ヒエンケオ(タイ王国文化省芸術局建造物課主任建築家)

「タイにおける木造建築技術の発展および近隣地域との相互関係」

討 議：モデレーター：友田正彦(文化遺産国際協力センター保存計画研究室長)

パネリスト：大田省一(京都工芸繊維大学准教授)

フランソワ・タンチュリエ

ポントーン・ヒエンケオ

## 文化財情報資料部

## 総合研究会(④シ)

総合研究会は、各研究部・センターの研究員がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。平成30年度は下記のスケジュールで開催した。

- ・第1回 2018(平成30)年6月5日(火)  
発表者：小山田智寛(文化財情報資料部)「文化財情報のデータベース化：その公開と課題」
- ・第2回 2018(平成30)年10月2日(火)  
発表者：西和彦(文化遺産国際協力センター)「文化財保護法改正をどう考えるか」
- ・第3回 2018(平成30)年11月6日(火)  
発表者：無形文化遺産部「無形文化遺産と災害」
- ・第4回 2018(平成30)年12月4日(火)  
発表者：倉島玲央(保存科学研究センター)「漆の科学分析」
- ・第5回 2019(平成31)年1月8日(火)  
発表者：飯島満(無形文化遺産部)  
「東京文化財研究所無形文化遺産部所蔵音声資料のデジタルアーカイブ化に向けて」
- ・第6回 2019(平成31)年2月5日(火)  
発表者：中山俊介(文化遺産国際協力センター)「近代文化遺産の保存に関わって」

## 文化財情報資料部

## 文化財情報資料部研究会(④シ)

文化財情報資料部では、ほぼ月に1回のペースで美術史研究者を中心とする研究会を開催して、それぞれの研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに討議によって充実を図っている。平成30年度の開催内容は